

令和 8 年度 協働のまちづくりチャレンジ事業申請書

※提出された申請書の内容は、個人情報を除いて公開する場合がありますので、ご了承ください。

※太枠の中をご記入ください。

申請部門	一般部門
※プルダウンから選んでください	

【1】事前相談

（1）市民活動サポートセンターコーディネーターへの事前相談 ※スタート部門は必須、一般・団体連携部門は任意です

コーディネーター名	中田 明秀 氏
事前相談日	3月4日
※複数回相談した場合、全てご記入ください	

（2）協働を希望する課への事前相談 ※スタート部門は任意、一般・団体連携部門は必須です

協働希望課名	ゼロカーボンシティ推進課
事前相談日	4月15日、4月28日
※複数回相談した場合、全てご記入ください	

【2】応募要件

該当する部門の応募要件の太枠内に、○を記載してください。（プルダウンになっています）

団体要件		
該当の部門	要件内容	
全部門共通	5 名以上で構成し、主に金沢市内で活動し、今後も活動を予定している団体である。	○
スタート部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去に採択された団体ではない。	
スタート部門	法人格を取得しておらず、かつ設立から 3 年以内の団体である。	
一般部門、団体連携部門	運営に関する規約等があり、1 年以上の活動実績を持っている。	○
一般部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去 3 回以上採択された団体ではない。	○
団体連携部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去 2 回以上採択された団体ではない。	
団体連携部門	異なる複数の団体による連携提案である。（申請者・団体概要をそれぞれ記入要）	
事業要件		
該当の部門	要件内容	
全部門共通	営利活動、宗教・政治活動を目的としていない。	○
全部門共通	申請事業について、国、地方公共団体又はこれらに準ずる団体から助成を受けていない。	○
全部門共通	既に地域や団体が実施している事業そのものではない。	○
全部門共通	翌年 3 月 31 日までに事業を完了できる。	○
一般部門、団体連携部門	一度採択された事業ではない。（新しい工夫・発展性が見受けられる場合は対象とする。）	○

【3】申請者・団体概要

団体の名称	NPOいしかわ海洋環境保全の会
団体名称のフリガナ	エヌピーオーイシカワカイヨウカンキョウホゼンノカイ
構成員	計 5 名
(内訳)	(1) 市内関係者 4 名 (2) その他 1 名
設立年月日 (西暦)	2025年 4月 1日 (設立 2年目)
団体概要	※記入しきれない場合、別に資料 (団体パンフレット、HP等) を併せて提出してください。
(1) 設立の目的	
※設立のきっかけや現在に至る経緯等	「海と暮らしを、次の世代へ」という理念のもと、清掃活動を始めましたが、果てしないごみの現状を伝え発生抑制を促進することが急務だと感じ、アップサイクル工作と共に伝える活動を始めました。現状を知るほどに、未来が変わるのを待つのではなく、一人一人が行動することが大切であり、もっと多くの人を巻き込み行動変容を促す必要があると感じています。他方で海に出ると海洋生物のこと、天気のこと、石のこと、ごみだけではなく五感を使って知ることができ、自ら学ぶ意欲を向上させる子どもたちを見て、学校教育の教科や探求学習への応用を試みています。
(2) 今後の目指して いきたいこと	当団体は、海岸清掃やアップサイクル体験を通じて、市民の意識を「ごみを拾う」から「ごみを出さない」へと転換し、ゼロ・ウェイストによる持続可能なまちづくりを目指しています。金沢市が掲げる2050年ゼロカーボンの実現に向け、資源循環の促進や使い捨て削減、地産地消の啓発などを通じて、温室効果ガス削減につながる行動を地域に根づかせます。
※団体ビジョンや団体ミッション等、将来達成したい理想の状態や目標、団体が果たすべき存在意義等	さらに、障害福祉分野と連携し、これまで支援を受ける側とされてきた障害のある方々が、環境課題に主体的に関わる担い手として参画できる仕組みを構築します。今後新たな学校や企業とも連携し、環境・福祉・教育を横断した活動を通じて、次世代へ美しい地域をつないでいきます。
活動概要	以下に記入してください。
(1) 主な活動履歴	2025年4月 プラスチックごみ削減啓発や清掃活動を目的に発足 2025年7月 海の日にプリンストン大学の学生と専光寺海岸にて清掃活動 2025年9月 国際クリーンアップデーに清掃活動 2025年10月 上勝町ゼロウェイストタウンを視察 2025年11月 浅野川清掃活動と資源循環のお話 2026年2月 上勝町ゼロウェイストタウンを視察報告会 年間を通して、海岸清掃活動と、環境教育、資源循環ワークショップを開催
(2) 得意分野・ 活躍できること	本団体は、海洋プラスチック問題から地球温暖化防止を考える体験型ワークショップを行っています。代表は年間約1,000名への指導実績を持ち、日本海洋教育学会大会実行委員として専門知識を現場に即した教育プログラムへ変換する技術や、多様な主体をつなぐコーディネート力を強みとしています。アップサイクル工作を通じてごみ分別の意識を高め、資源循環を促進することで、新規資源の採掘・製造・焼却に伴うエネルギー消費とCO ₂ 排出を抑制し、温暖化の進行を防ぎます。資源循環を直感的に理解できる場を創出し、市民の行動変容を促すことで、もったいないがない金沢市のゼロカーボンシティ実現に向けた脱炭素文化の定着を目指します。
※専門的知見、連携先、 アピールポイント等	
HPSNSのURL	https://ishikawaocean.hp.peraichi.com/

【４】企画内容

提案事業のテーマ	金沢市未来共創計画の5つの基本方針の中から、該当するテーマを選んでください。 【参考】未来共創計画の一覧はこちら↓ 未来共創計画 基本方針一覧
テーマ（プルダウン）	小テーマ（左セルでテーマを選ぶと、選択肢をプルダウンから選ぶことができます）
基本方針2_暮らしづくり	(4) 人と自然が共生する地球にやさしい生活環境の形成
※テーマが複数に渡る場合、副次的なテーマを以下から選択してください。	
基本方針3_人づくり	(2) すべての子どもの可能性を引き出し生きる力を育む教育の実践
協働を希望する課名 ※スタート部門は任意	ゼロカーボンシティ推進課
企画のタイトル	かなざわ市民行動変容プロジェクト～ごみからはじめるゼロカーボン実践プログラム～
事業の概要	※①～③の流れに沿って、具体的に記載してください。
①現状の地域課題 (金沢市における困りごと、改善したい点、従来認識されていなかった課題 等)	金沢市においては、環境意識の高まりを背景に海岸清掃等の活動が広く実施されており、多くの市民が環境保全に関心を持ち、行動している点は大きな強みとなっています。一方で、これらの活動が家庭部門におけるCO₂排出削減や日常的な行動変容に十分結びついていないという課題も見受けられます。 例えば、清掃活動の現場においてペットボトル飲料が配布される、アンケート記入に使い捨てのプラスチック鉛筆が使用される、また参加者がマイボトルを有さず現地の自動販売機を利用するなど、環境配慮行動を促す場でありながら使い捨て資源の消費が発生しているケースもあります。猛暑時など安全面への配慮が必要な場面もありますが、こうした状況は、日常生活における行動との一貫性という点で改善の余地があると考えられます。コロナ禍以降、多くの会社においても来客の際にペットボトルをお出しするのがマナーようになってしまっています。 また、「ペットボトルは回収され資源化されるため問題ない」という認識も一定程度見られ、リサイクルが前提となることで、使用量そのものを減らすリデュースという視点が十分に浸透していない状況があります。さらに、海岸清掃活動についても、「ごみを拾うことで良いことをした」という達成感の中で完結し、その後の生活行動の見直しにまでつながりにくい側面があります。 このように、環境活動への参加が一時的な意識の高まりにとどまり、マイボトルの持参やレジ袋辞退といった具体的な行動の定着、さらには家庭内でのエネルギー使用の見直しといったCO₂排出削減効果の高い行動へ十分に展開されていない点が課題といえます。 以上のことから、金沢市においては、環境意識の高さという強みを活かしながら、活動の場を日常生活の行動変容へとつなげる仕組みづくりが求められていると感じています。使い捨て資源の使用に関する認識と実践のギャップを埋め、継続的な行動へと結びつけていくことが、今後の重要な課題であると思います。
②ねらい・コンセプト (①で記載した課題解決のために、 ・アプローチする方向性 ・工夫する点 ・協働する意義 ・市民が共感できる点 等)	本事業は、海岸清掃等の環境活動を「参加して終わる体験」から「日常の行動変容につながるきっかけ」へと転換することをねらいとしています。ごみの可視化や身近な資源を活用した体験を通じて、自分の生活と環境負荷とのつながりを実感し、無理なく行動を見直す機会を創出します。特に、マイボトル持参の徹底や使い捨て資源の削減を前提とした運営へ転換することで、リデュースの視点を体感的に浸透させます。さらに、活動後に家庭での省エネや消費行動を見直す仕掛け（見える化や振り返り）を組み込み、継続しやすい工夫を取り入れます。行政と市民団体が協働することで多面的な働きかけを可能にし、無理なく続けられる環境配慮という共感を広げ、意識と実践のギャップ解消を目指します。

③実施内容案 年間事業スケジュール案について、必要があれば使用してください↓ 事業スケジュールひな形	本事業は、全3回の講座および展示活動を通じて、市民の「気づき」を日常生活における具体的な行動へとつなげ、その定着と地域への波及を図る実証型プログラムです。延べ100人規模での実施を想定し、行動変容率80％、継続率60％以上を目標とします。 第1回（令和8年7月頃・清掃活動）では、海岸清掃とごみの可視化を実施し、回収ごみ約20kgを想定、焼却時のCO₂排出量を簡易算定します。あわせてマイボトル持参を原則とし、ペットボトル約30本分の使用削減を図ります。雨天時は屋内施設にて講話およびごみ問題の可視化に関するワークを実施いたします。事前アンケートにより、参加者の現状を把握します。 第2回（令和8年10月17日・金沢市南町 明治安田ヴィレッジにて）では、第1回で回収したマイクロプラスチックを材料にアップサイクル工作体験を実施いたします。特別支援学校と連携し環境と福祉の両立を図ります。あわせてごみ分別および発生抑制の講話を行い、使用資源量の測定および中間アンケートにより行動変化を把握します。使用電力の一部には太陽光で充電したポータブル電源を活用します。 第3回（令和8年11月頃）では、これまでの体験を踏まえ、マイボトル持参、レジ袋辞退、節電等の具体的な行動を自分の生活と結びつけて設計します。あわせて、市の取組や環境の現状をまとめたリーフレットを配布し、節電等の実践行動の理解を深める今後の行動変容につき最低1つ付箋に書きボードに貼ります。事後アンケートにより、マイボトル持参率90％、レジ袋辞退率80％等への向上を目指します。 さらに、10月頃から約1か月間、市内会場にて展示を実施し、アップサイクル作品や行動宣言、活動成果を可視化することで、参加者以外への波及を図ります。本事業により、1人あたり年間約5kg-CO₂、全体で約500kg-CO₂の削減効果を見込んでいます。今後、河川・市街地等の清掃活動も取り入れ、より多くの市民の行動変容を促進したいと考えています。
事業効果	※金沢市における効果や、事業の対象者が具体的にどうなるか等、記載してください。
期待できる事業効果 （広く市民が共感できるか、他団体や行政・企業とのつながり、協働の効果がみえるか 等）	本事業は、金沢の美しい自然を守る「清掃」を入り口に、アップサイクル体験やCO₂削減量の可視化を通じて、「自分たちの行動が街をどう変えるか」を実感できるプログラムとしました。特別支援学校と連携したアップサイクル作品の展示は、環境問題を身近で温かみのあるストーリーとして伝えます。期間中、作成したリーフレットの配布により金沢市の現状を知ること、市民は「自分の生活と街の未来」を重ね合わせ、高い共感を持って行動変容に取り組むことができます。行政の知見、廃棄物、そして福祉の力が結びつくことで、一団体では成し得ない「循環型社会」のモデルを提示します。市との協働により、活動の信頼性が高まるだけでなく、地域全体を巻き込んだ大きな波及効果が期待できます。アンケート等により行動変容率等を算定し、市へ報告いたします。体験を通じて生まれた「行動宣言」が展示されることで、参加者以外にも「これなら自分もできそう」という希望を広げ、市と市民が一体となって2050年ゼロカーボンシティという同じ目標に向かう意識を再確認することができます。
その他 特記事項 （今回応募した動機・熱意、本事業を通して何を得たいか 等）	海岸清掃の現場で痛感しているのは、回収・処分は対症療法に過ぎず、脱炭素には市民の行動変容が不可欠であるということです。ごみを「捨てる」から「出さない」へと転換し、資源消費やCO₂排出そのものを減らす必要があります。徳島県上勝町の視察から、価値転換を実体験する場が行動変容を生むと確信しました。本事業では5ヶ月間の継続的な介入により脱炭素習慣を定着させ、その効果を数値化します。さらにインクルーシブな設計により多様な市民参加を促し、「誰一人取り残さないゼロカーボンシティ」を目指します。未来は待つものではなく、自らの行動で変えられることを実証したいと考えています。